

ジェネリック医薬品を上手に活用して 国保などの医療費を軽減しましょう！

医療技術の進歩や高齢化の進展などにより、
先発医薬品より価格が安いジェネリック医薬品
今後とも本町の医療費は増加することが見込まれ、
自己負担額を軽減し、
医療保険財政は厳しさを増しています。
を上手に活用することで、自己負担額を軽減し、
医療保険財政を改善していきましょう。

■薬代が安くなるジェネリック医薬品

医療技術の進歩や高齢化の進展などにより、今後も医療費増加が見込まれ、医療保険財政は厳しさを増しています。
ジェネリック医薬品の普及は、自己負担額の軽減や医療保険財政の改善に有効です。

私たち一人ひとりがジェネリック医薬品のことを知り、上手に活用しましょう。

■ジェネリック医薬品に関するQ&A

Q ジェネリック医薬品とは？

A 後発医薬品とも呼ばれ、先発医薬品の特許期間が過ぎた後に販売が許可される医薬品のことです。

一般的に、先発医薬品の開発には、長い時間と多くの費用が掛かりますが、特許期間中は、開発メーカーが独占的に製造することができます。しかし、この特許期間が過ぎれば、ほかのメーカーも同じ主成分の薬を作るものが可能になります。

これがジェネリック医薬品で、研究開発費が少なくて済むことから、先発医薬品よりも安く提供できます。

Q どのくらい安くなるの？

A 先発医薬品の3〜5割程度安くなる場合が多いようです。

特に高脂血症、高血圧、糖尿病といった生活習慣病や慢性疾患の治療薬は、継続的な服用が必要となる場合が多いので、ジェネリック医薬品に変更することにより自己負担額が大きく減少します。

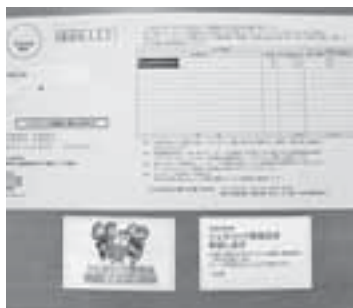
国民健康保険加入者には、ジェネリック医薬品に切り替えた場合、1か月間でどのくらい安くなるかを試算した通知を年に2回送付していますので参考にしてください。

Q 効き目や安全性は大丈夫？

A ジェネリック医薬品は、先発医薬品と同じ有効成分で開発、製造されています。先発医薬品と同様の安全基準を満たす信頼できる薬です。

ただし、有効成分以外の添加剤は、メーカーごとに微妙な違いがあり、ほかの薬などの飲み合わせが変わってくることもあります。

Q ジェネリック医薬品を希望するときは？
A 医師の処方せんが必要となりますので、まずは



▶年2回送付する「ジェネリック医薬品に関するお知らせ」(上)とジェネリック医薬品希望カード(下)

▼お問い合わせ先

町住民生活課

☎096-2334-1113

(内線106)

✉kkg204@town.kosa.lg.jp

▶講師の小林さんの指導の下、水質検査薬を使った調査を体験する団員たち



豊かな自然を五感で体感

「こうさ環境子ども探検団」

● 緑川の水質や生物を調査

8月22日（水）緑川環境教育の一環として、体験学習「こうさ環境子ども探検団」が実施されました。

豊かな自然との触れ合いを通して、環境についての問題意識や自然保護への関心を高めることを目的に、町教育委員会が主催。小学4年生から中学生までを対象とし、17回目となる今年は8人が参加。熊本県自然観察研究会代表の小林修さんを講師に招き、自然と触れ合いました。

探検団はまず、緑川上流の「青葉の瀬」キャンプ場（山都町）を訪れ、緑川の水質検査と水生生物の生息調査を実施しました。

水質検査では、水温を計ったり水の透明度を確認したり



▲緑川上流に生息する水生生物を採集



▲ハンモックに寝そべり、自然を体感

した後、水質検査薬などを使って成分を調査。生息調査では、水中や石の裏などに潜む水生生物を採集し、一覧表と照らし合わせて名前や種類を確認。調査の結果、水にわずかな汚れがあるものの、水生生物も生息しており、不快を感じるほどの水環境ではないことが分かりました。

● 五感を使って自然を体感

調査終了後は、緑を見つめて細胞を活性化させる「森林セラピー」を体験したり、セミの声を聞いたり、ハンモックに寝そべったりして、五感を使って自然を体感。最後に、山都町の鮎の瀬大橋を見学しました。

小林さんは「今日の体験を通して、自然を守る気持ちをもっと伝えていきたい」と団員に伝えました。